

おわりに

前述までのように、「全国コットンサミット in 岸和田」は、一定の成果を挙げて、開催することができた。これもサミットに参加され、活動を報告された各地の方々のおかげによるところが大きい。本書を借りてサミットで至らなかった点をお許し願うとともに、参加いただいたことにあらためて、感謝申し上げたい。皆さまの参加により、全国コットンサミットの意味は受け継がれるのである。

しかしながら、これまでに浮き彫りとなった課題等を挙げたい。

開催に向けた課題

1. 開催費用の捻出が困難なこと
2. 綿花栽培と地域活性化が直接結び付きにくいこと

第一に、開催費用の捻出が困難なことである。当初、サミット開催は運営費用の面から、開催に慎重な考え方が大勢を占めていた。加えて、参加者が増加するとともに、開催に向けた各機関への調整等に時間を要した。

本コットンサミットでは、地元自治体や商工会議所、参画企業が開催費用を負担することで対処したが、今後継続開催していくには、サミット開催費用を無理のない範囲で確保する必要がある。そのためには、サミット開催に要する費用を捻出する仕組み（会員、会費制度、法人格の保有など）が必要となろう。議論していく必要がある。

第二に、綿花栽培が地域活性化に直接結び付きにくいことである。綿花栽培は、綿から糸、糸から織布、衣服へともものづくりの流れを理解する上では、子供から年配者まで理解しやすい。しかし、それだけでは、地域の活性化、いくなれば観光客の増加、雇用創出、産業振興、域外への売上などの実質的な効果を期待することはやや難しい。

そんな中、夢つむぎ会では、数年前から岸和田をモチーフにした手拭いを注染で染め上げ、販売している。本年は、だんじり柄をいれることで、NHKの放映効果に後押しされ、着実な販売実績をあげている。こうした買いやすい商品、わかりやすい商品が販売に結びつき、ひいては収益の確保による事業者等の活動資金の補完へとつながる。継続的な活動を目指すには多くの方々の工夫や知恵を結集する必要があるだろう。

この点については、参加される各地で成功事例を作り上げることを期待したい。成果を挙げる為には、自治体が主導権を持つ場合、担当者の一過性の活動に終始しないように、取組みを恒常化させる工夫（例えば、担当者をしばらく専従化するなど）が必要となろう。

この二つの課題を十分検討し、乗り越えることができれば、各地の綿花栽培の動きは、いままで以上に大きなムーブメントとなり、ものづくりや地域活性化に大きな変革（イノベーション）を引き起こすことができるに違いない。今後の活動を期待したい。

補論 綿花栽培と震災復興支援

綿花の種類

綿の分類として、染色体数 26 型のうち、新世界綿が体勢を占め、そのうちの一つに、陸地綿群 (Upland group)、ブルボン群、ペルー群など分類される。

図表 5 分類構成図

第一類 染色体数 n=26 型
A.新世界綿 (栽培あるいは野生)
1) 陸地綿群 (Upland group)
2) ブルボン群 (Bourbon group)
3) ペルー群 (Peruvian group)
など
B.ポリネシア綿 (野生)
第二類 染色体数 n=13 型
A.旧世界綿 (野生および栽培)
1) <i>G.arboreum</i> L. (アジア等で栽培、ふとん中綿用)
など
出所：西川五郎 (1960) 『工芸作物学』, 農業図書社, p.94 一部追加

ペルー群の中に、1年草として栽培されるエジプト綿 (Egyptian cotton) および海島綿 (Sea Island) が含まれる。海島綿には Pima が含まれる。

綿花の種類と綿毛長

綿花は種類により、その綿毛長は異なり、それは環境条件よりも品種によることが大きい。

「主要な栽培品種の中で、海島綿が最も長く、次いで、エジプト綿、陸地綿・アジア綿の順序となっている。」 (西川 (1960), p.108)

一般的に、「海島綿は 1 1/2~2 インチ、エジプト綿は 1 3/8~1 3/4 インチ、陸地綿は 14/16~1 1/2 インチ (さらに、長繊維 (1 1/8 インチ以上)、中繊維 (1 1/32~1 2/32 インチ)、短繊維 (1 インチ以下) に分けられる)、さらに、アジア綿は 3/8~15/16 インチくらいである。1 インチ以上の長繊維綿では、価格プレミアムがつく。」 (同上, p.108)

図表6 綿毛長の比較 (cmに換算)

・海島綿 (1 1/2～2 インチ)	—————	5.08cm
・エジプト綿 (1 3/8～1 3/4 インチ)	—————	4.44cm
・陸地綿 長繊維 (1 1/8 インチ以上)	—————	2.85cm
中繊維 (1 1/32～1 2/32 インチ)	—————	2.69cm
短繊維 (1 インチ以下)	—————	2.54cm
・アジア綿 (3/8～15/16 インチ)	—————	2.38cm

注：西川 (1960) ,p.108 を元に、実寸 (— — —) にて表記

日本国内における綿花栽培

「日本における綿作は、明治29年4月の輸入綿花関税撤廃までは約10万ha作られていたが、その後この措置によって急激に綿花生産は減少し、昭和10年にはわずかに632haを作つけるに過ぎなくなった。昭和15年頃から綿作面積は幾分増加し、昭和18年には7,364haに達し、昭和20年は4,850haであった。

昭和31年の全国作付け面積1,262ha、1ha当たりの繰綿収量は244kg程度、主要生産地は、茨城、鳥取、埼玉、佐賀、山梨、愛知、静岡、新潟などである。栽培される綿は大部分がアジア綿であるが、陸地綿品種も一部栽培されている。日本における生産綿の大部分は、ふとんの中入り綿に用いられている」

(西川 (1960) , p.82) というように、国内では昭和30年以降、減少の一途となり、ついには栽培記録は途絶える。

綿花の種類による塩化物等の吸収性

塩水につかり浸水し塩濃度が高い田畑に綿花を植え、除塩を目的に活動が進められている。ここでは、綿花の種類によって、塩化物等の吸収に差異がみられるかどうか、西川著書から考察したい。

西川著書には、以下のように、記されている。

「綿の種類によって、塩類に対する選択性に差異のあることが知られており、陸地綿(Upland group)は硫酸塩に対し、エジプト綿は塩化物に対して選択性を有している。すなわち、陸地綿(Upland group)は塩化物の吸収少なく硫酸塩の吸収が大であり、エジプト綿はその反対である。

アメリカエジプト綿の Pima はアルカリ土壌においてその生育が陸地綿に優れるが、これは上述のような塩類に対する選択性によって一部説明がなされている。海島綿は Pima 綿に似た性質をもっている」(出所:西川(1960), p.105)

この指摘から考えるに、綿花の種類によって塩化物の吸収におおきな差異があるように考えられる。つまり、陸地綿(Upland group)は、海島綿等よりも、塩化物の吸収は少ないと思われる。ただ、実証データが示されていないことから、これらを査証する実証データが必要と考える。

参考文献

西川五郎（1960）『工芸作物学』，農業図書(株)

日比 暉（1994）『なぜ木綿?：綿製品の商品知識』，日本綿業振興会

松下 隆（2010）「綿花栽培と地域循環のものづくり」『産業能率』，社団法人
大阪能率協会

あとがき

編集に関わった担当者

企画、執筆、編集	: 松下 隆 (大阪産業経済リサーチセンター)
テープ起こし (4、5)	: 木下和紗 (和歌山大学大学院生)
監修	: 浅田大輔 (大正紡績)、辰巳美績 (辰巳織布) 岸和田商工会議所、岸和田市役所

編集後記

「全国コットンサミット in 岸和田」が開催されるまで、関係者の方々は大変苦労された。開催にこぎつけたのは、粘り強く開催までこぎつけた辰巳美績によるところが大きい。また、きしわたの会など市民活動を支えた木村元廣の行動なしにはサミット開催は実現しなかった。各地に参加要請をかけるのに精力的な近藤健一はまさに、コットンサミットの顔であろう。

思い起こせば、コットンサミット開催が企画されたのが 2009 年、一年後に本当に開催可能なのかと気をもみ続けたが、2011 年 2 月段階に、ようやく動き出し、直近の 1 か月は大正紡績をはじめ、企業が積極的に活動した賜物であると記憶している。

今年は、NHK の連続テレビ小説で、小篠綾子さんの生涯をモデルにした「カーネーション」の放送が始まった。岸和田市が、さらに全国に知られる絶好の機会である。

また、東北大震災は忘れがたい記憶である。綿花で塩害を除去し、農家支援を訴えた越智会長の思いは、東北被災地で多くの企業、人の思いを駆り立て、時代の大きなムーブメントになった。全国コットンサミット事務局は東北コットンプロジェクトに技術支援として参画し、6月に宮城県仙台市荒浜、名取市にて種植えを支援した。その後も、サミットの中心メンバーの大正紡績は、東北コットンプロジェクトで、大きな役割を担っている。

本コットンサミットが繊維産業をみつめ、人々の価値観、暮らしを再考しつつ、多くの人々に見守っていただくことを祈願して、筆を置く。 (松)